

# 県教研に参加された先生方の授業実践

2年「はっけん くふう おもちゃ作り」

三島小学校

羽根 遡 佑美

## ○実践

本学級の子供たちは、家に帰るとゲームやコンピュータで遊ぶことが多く、自然の中で遊んだり、自ら工夫して遊びを楽しんだりといった経験が少ない。そんな子供たちに、身近なものを使っておもちゃを作り、その中で自分の思いや願いを達成するために思考する力を身につけてほしいと考え、本単元を設定した。まず、ゴムの力で遠くへロケットを飛ばす「ゴムロケット」を作り、「もっと遠くへ飛ばしたい」との願いをもった子供たちに、ゴムの太さや長さ、ロケットの長さや重さが違う材料を準備して自由に使えるようにした上で、必要に応じて屋外や体育館で授業をした。また、友達と相談しながら改造を進められるようにした。授業は「ゴム」「発射台」「ロケット」と改造するところを焦点化し、子供たちがそれぞれの工夫を見直す場である「改造会議」で話し合いをした。子供たちは自分のロケットをもっと飛ばすようにしたいと切実感をもって話し合いを行い、どうするのがよいか思考する姿が見られた。



## ○成果

改造を繰り返す中で、友達のゴムロケットと比べたり、よりよい材料を選んだりしながら、自分の思いや願いの達成に向けて工夫することができた。その結果、「改造会議」では切実感をもって工夫や気づきを話し合うことができ、自分の思いや願いを達成するために子供たちは思考を深め、気づきの質を高めていくことができた。

1年「あきとなかよし」

竜谷小学校

太田 由惟

## ○実践

子供の思いや願いを実現させたり、秋について思考を深めさせたりするため、プリンカップやラップなどの材料、テープやカラーペンなどの道具、図書資料などを常時教室に置いておく「おたすけコーナー」を設けた。さらに、「かなしいかあど」「ふしぎはてなかあど」などを教室に置いておき、いつでも書くことができるようにし、書いたカードを掲掲するコーナーを設けた。すると、自分が見つけた秋についての自分の気づきや思いを、絵と言葉で表現して愛着を深めることができたり、友達の気づきのよさを見いだすことができたりした。

また、秋を使って遊びを考える授業の毎時間終わり15分間に、友達の考えた遊びで遊ぶ時間を設けることで、友達の考えた遊びの工夫に気づき、そのよさを取り入れてみたいと思い、自分なりに工夫をすることができた。さらに、友達の考えた遊びで遊んだ後、よいところや改善点を教えるアドバイスタイムを設けることで、友達のよさを認めることができ、より楽しく遊ぶために工夫したり改良したりすることができた。

## ○成果

おたすけコーナーのものを使って思いや願いを実現させたり、学習カードから気づきを共有させたりしたことで、自然に関心を持ち、魅力を見つけ、親しみや愛着をもつことができた。また、自然を使って遊びを考える中で、自ら工夫したり、友達のよさに気づきのよさを見いだしたりする姿が見られた。秋の授業が終わった後も、子供たちは自然に興味をもち続け、冬を見つけることもできた。

